令和8年度　全国学力・学習状況調査
栗東市の結果について（概要）

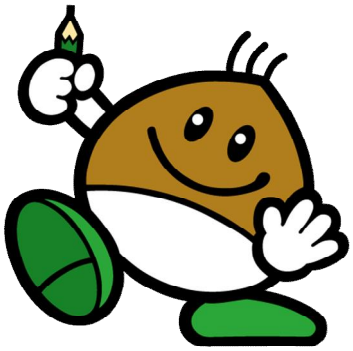
全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てる目的で、全国全ての小中学校を対象に実施されています。

令和８年度の調査結果と、今後の改善に向けたポイントについてまとめましたのでお知らせします。

全国学力・学習状況調査は、学力の一つの指標であり、決して競争をあおるためのものではありません。子どもたちについている力や課題を明らかにし、日々の教育活動に生かすことをねらいとしています。

また、ここに示す資料は、栗東市全体の概要であり、個々の児童生徒一人ひとりの状況とは一致しない面もあります。保護者の皆様は、お子様の学習状況を考える上での参考資料としてください。

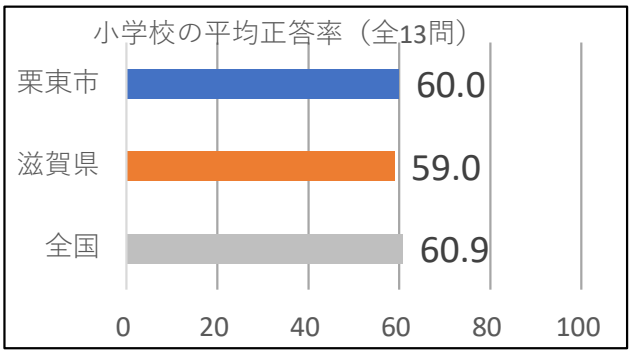
栗東市の子どもたちが、温かな環境のもとで安心して学習ができますよう、これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

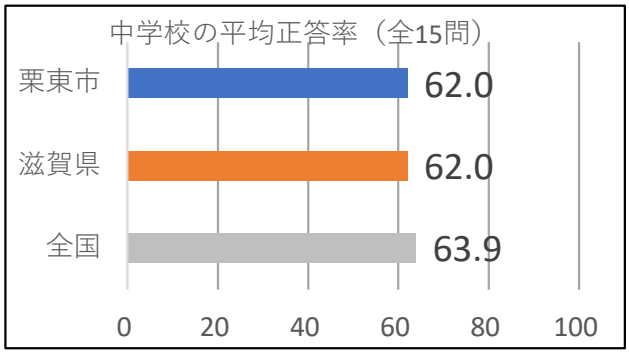


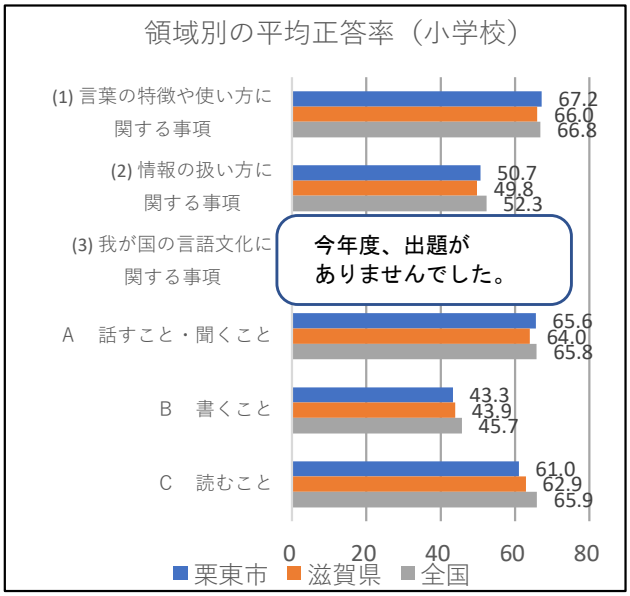
栗東市教育委員会事務局

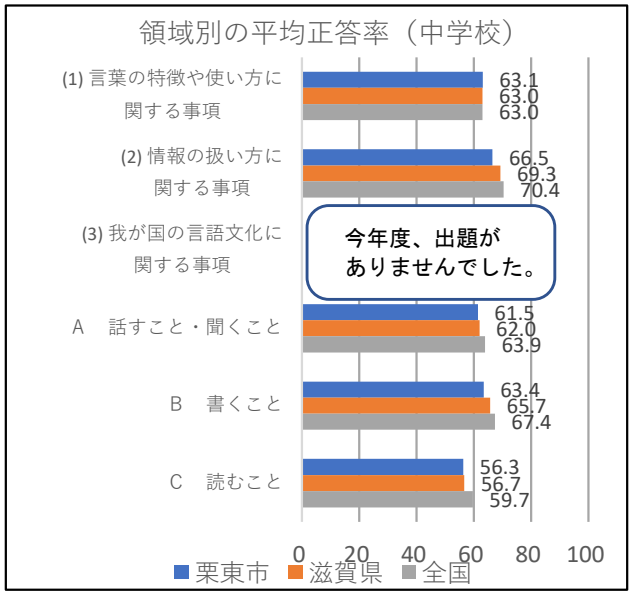
教科に関する調査の栗東市の子どもたちの全体的な傾向

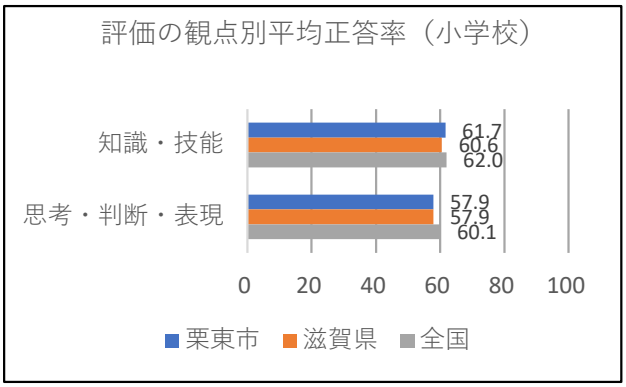
1. 国語

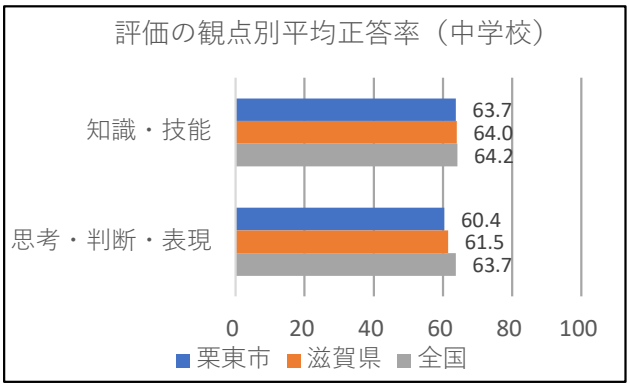


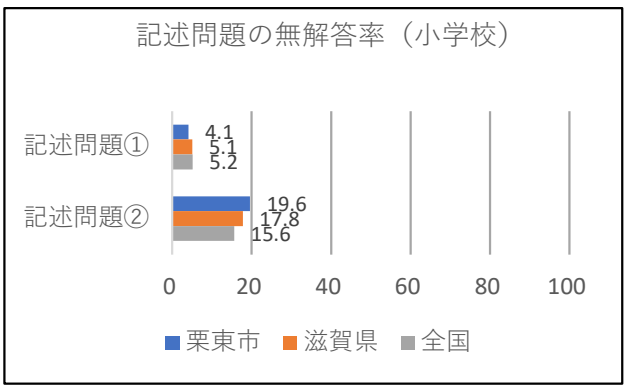


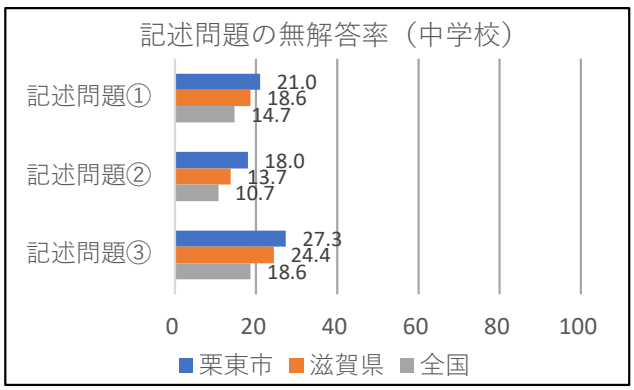


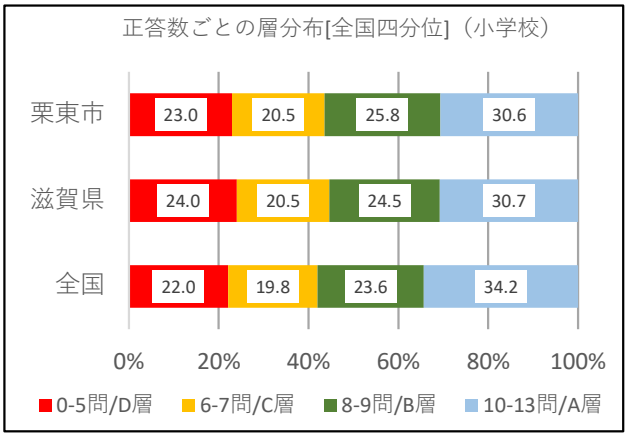


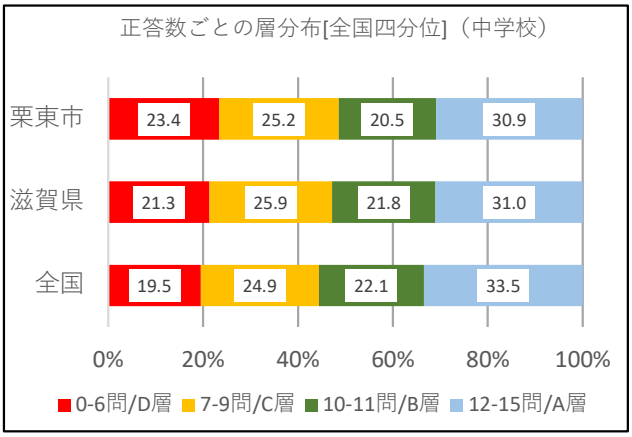










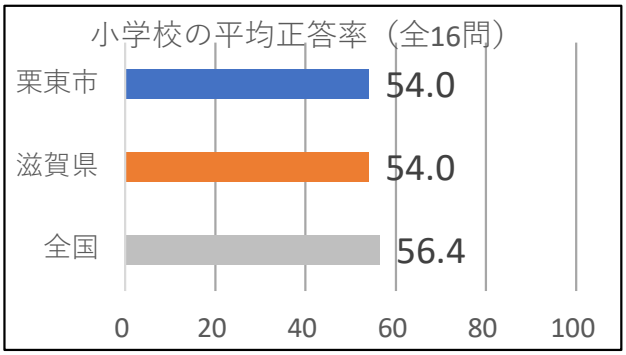


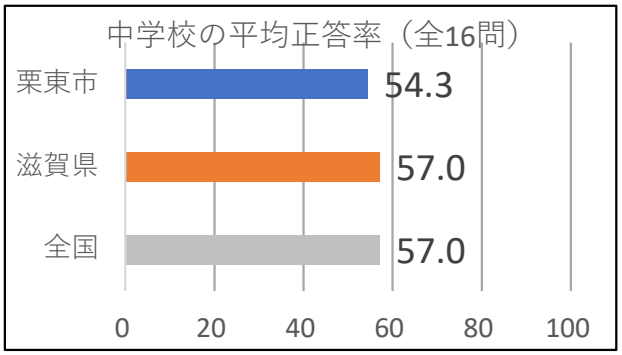
正答数ごとの層分布【全国四分位］とは、全国の児童生徒を正答数の順に並び替えて、4等分してグループに分けたものです。
下から第１四分位（D層）、第２四分位（C層）、第３四分位（B層）、第４四分位（A層）と呼びます。

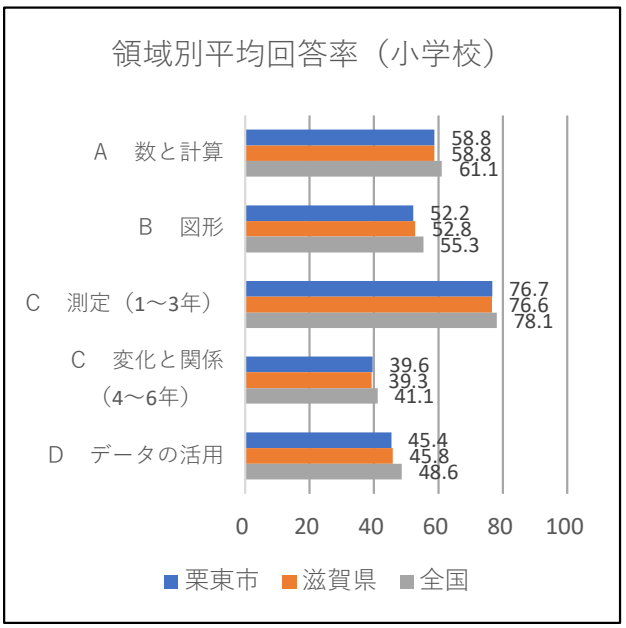
【国語の結果概要】

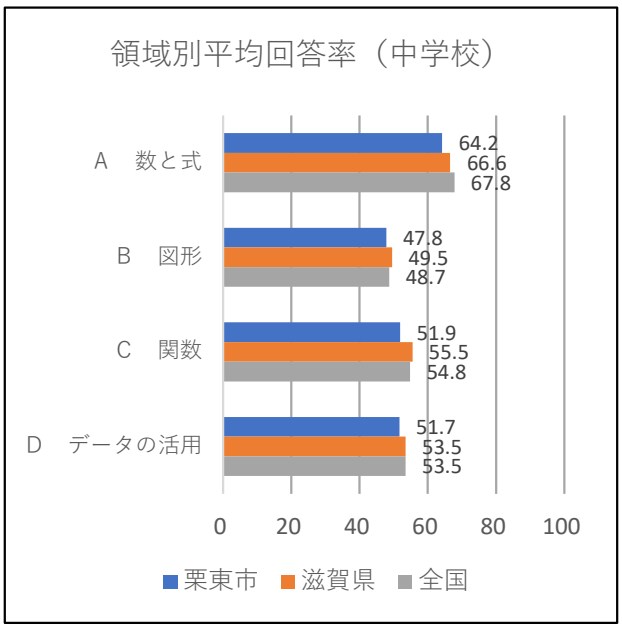
	小学校	中学校
平均正答率	全国平均を0.9ポイント下回っていましたが、滋賀県平均を1.0ポイント上回っていました。	全国平均を1.9ポイント下回っていましたが、滋賀県平均と同じ平均正答率でした。
領域別の平均正答率	5項目の内、1項目が全国平均を上回っており、3項目が滋賀県平均を上回っていました。	5項目の内、1項目が全国平均・滋賀県平均とも上回っていました。
評価の観点別平均正答率	「知識・技能」は、全国平均について若干下回り、滋賀県平均より上回りました。 「思考・判断・表現」は、全国平均を下回っていましたが、滋賀県平均と同じ平均正答率でした。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」とも、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
記述問題の無解答率	２問中１問が全国平均より1.1ポイント、滋賀県平均よりも1ポイント低い割合でした。	３問全てで、全国平均、滋賀県平均よりも高い割合となっていました。
正答数ごとの層分布［全国四分位］	それぞれの層の児童の割合が滋賀県とほぼ同じでした。A層の児童の割合が全国より低くなっていました。	D層の生徒の割合が全国よりも高く、A層の生徒の割合が全国より低くなっていました。
国語科の学力向上の手立て	全国四分位の層分布から、児童には滋賀県並みに学力が身についているといえます。 滋賀県の取組「読み解く力」の向上に向けた言語活動の充実を図る授業改善の成果が表れています。引き続き、「書く」「説明する」といった学習過程を大切にします。	D層の生徒に焦点をあて、基礎学力向上のため、分かるまで共に学習を進めるなど、個々へのきめ細やかな学習支援が必要です。 さらに、日々の学習習慣が定着するよう、家庭へ積極的に連携する取組が求められます。

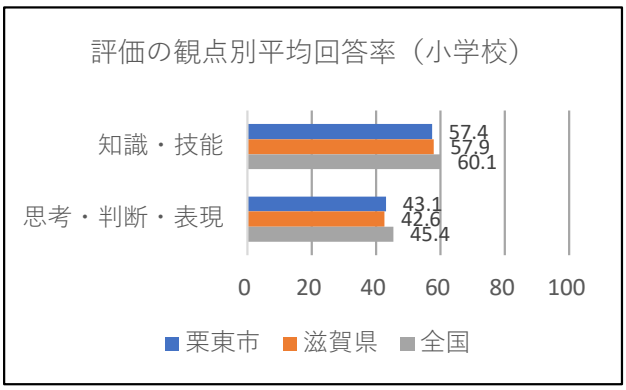
2. 算数・数学

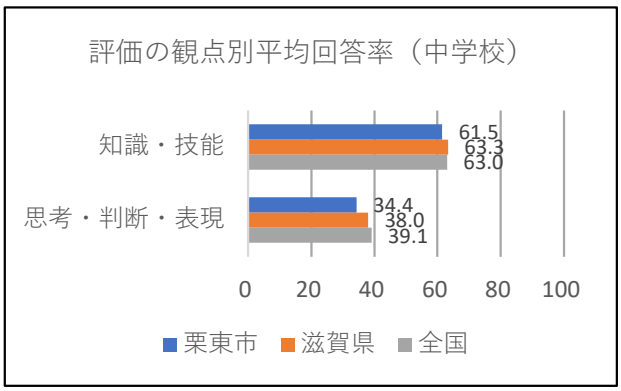

小学校の平均正答率（全16問）
栗東市
54.0
滋賀県
54.0
全国
56.4
0
20
40
60
80
100

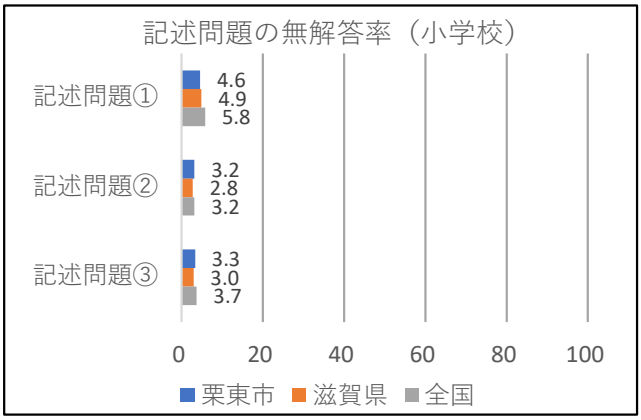

中学校の平均正答率（全16問）
栗東市
54.3
滋賀県
57.0
全国
57.0
0
20
40
60
80
100

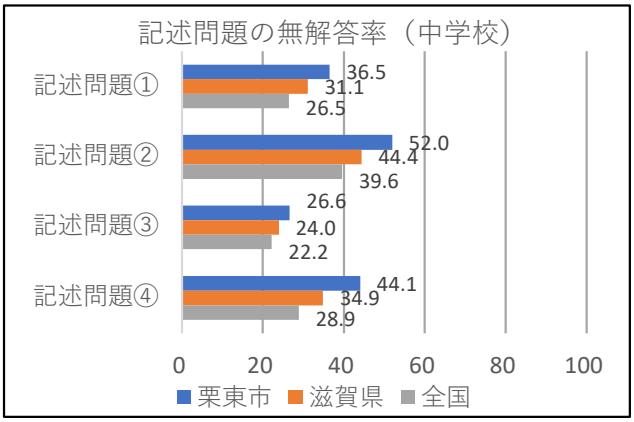

領域別平均回答率（小学校）
A　数と計算
58.8
58.8
61.1
B　図形
52.2
52.8
55.3
C　測定（1～3年）
76.7
76.6
78.1
C　変化と関係（4～6年）
39.6
39.3
41.1
D　データの活用
45.4
45.8
48.6
0
20
40
60
80
100
栗東市
滋賀県
全国

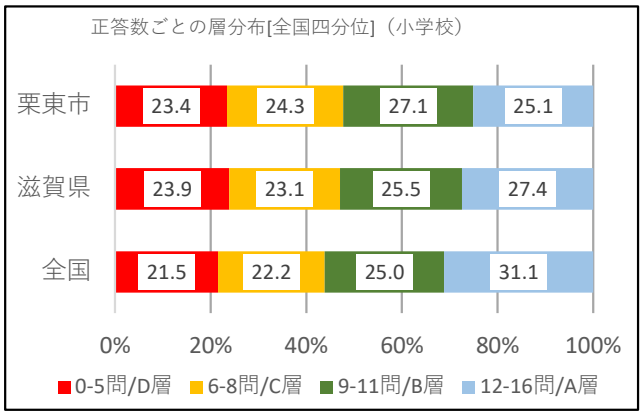

領域別平均回答率（中学校）
A　数と式
64.2
66.6
67.8
B　図形
47.8
49.5
48.7
C　関数
51.9
55.5
54.8
D　データの活用
51.7
53.5
53.5
0
20
40
60
80
100
栗東市
滋賀県
全国

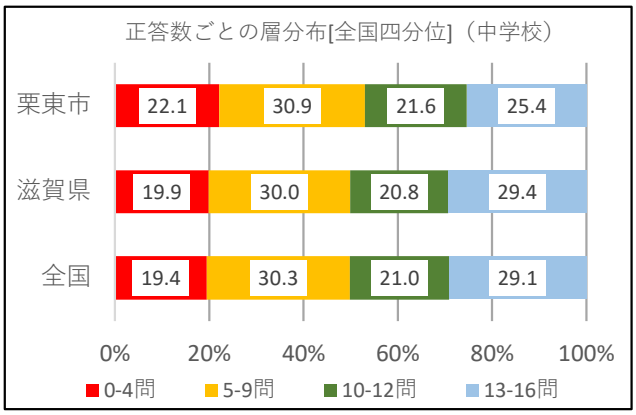

評価の観点別平均回答率（小学校）
知識・技能
57.4
57.9
60.1
思考・判断・表現
43.1
42.6
45.4
0
20
40
60
80
100
栗東市
滋賀県
全国


評価の観点別平均回答率（中学校）
知識・技能
61.5
63.3
63.0
思考・判断・表現
34.4
38.0
39.1
0
20
40
60
80
100
栗東市
滋賀県
全国


記述問題の無解答率（小学校）
記述問題①
4.6
4.9
5.8
記述問題②
3.2
2.8
3.2
記述問題③
3.3
3.0
3.7
0
20
40
60
80
100
栗東市
滋賀県
全国


記述問題の無解答率（中学校）
記述問題①
36.5
31.1
26.5
記述問題②
52.0
44.4
39.6
記述問題③
26.6
24.0
22.2
記述問題④
44.1
34.9
28.9
0
20
40
60
80
100
栗東市
滋賀県
全国

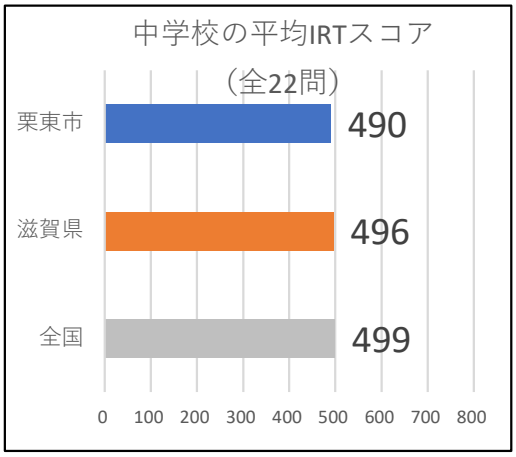




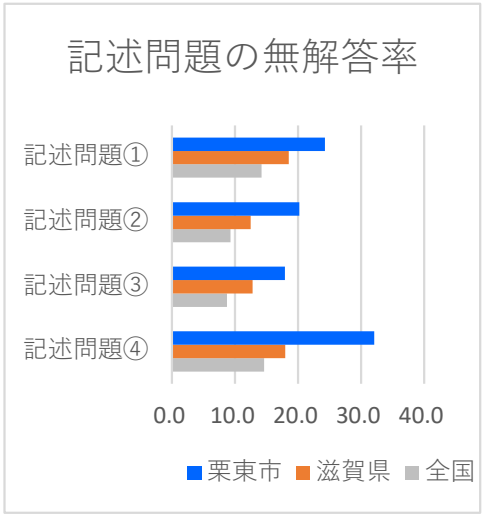
【算数･数学の結果概要】

	小学校	中学校
平均正答率	全国平均を2.4ポイント下回り、滋賀県平均とは同じ平均正答率でした。	全国平均・滋賀県平均ともに2.7ポイント下回っていました。
領域別の平均正答率	５項目の内、全国平均は全てで下回り、滋賀県平均を2項目上回っていました。	４項目全てで、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
評価の観点別平均正答率	「知識・技能」は、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。 「思考・判断・表現」は、全国平均を下回り、滋賀県平均を上回っていました。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」とも、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
記述問題の無解答率	3問中2問が全国平均より低い割合でした。残りの1問についても全国平均と同じ無解答率でした。	4問全てで、全国平均、滋賀県平均よりも高い割合となっていました。そのうち２問は半数近くが無解答でした。
正答数ごとの層分布［全国四分位］	D層・C層・B層の児童の割合が全国よりも若干高く、A層の児童の割合が全国より若干低くなっていました。	D層・C層・B層の生徒の割合が全国よりも高く、A層の生徒の割合が全国より低くなっていました。
算数科・数学科の学力向上の手立て	D層・C層の児童に対して、立式や小数の計算など基礎学力向上につながる取組みの積み重ねが大切です。算数的活動を通して、お互いの考え方のよさに気づかせ、より深い学びにつなげていくことが大切です。	D層・C層の生徒の割合が50%を超えていることから、数学的な用語の意味を理解できるようにするなど、基礎学力の定着を図る学習支援が必要です。 国語科同様に、学習習慣が定着するよう、家庭へ積極的に連携する取組が求められます。

3. 英語（中学校のみ）

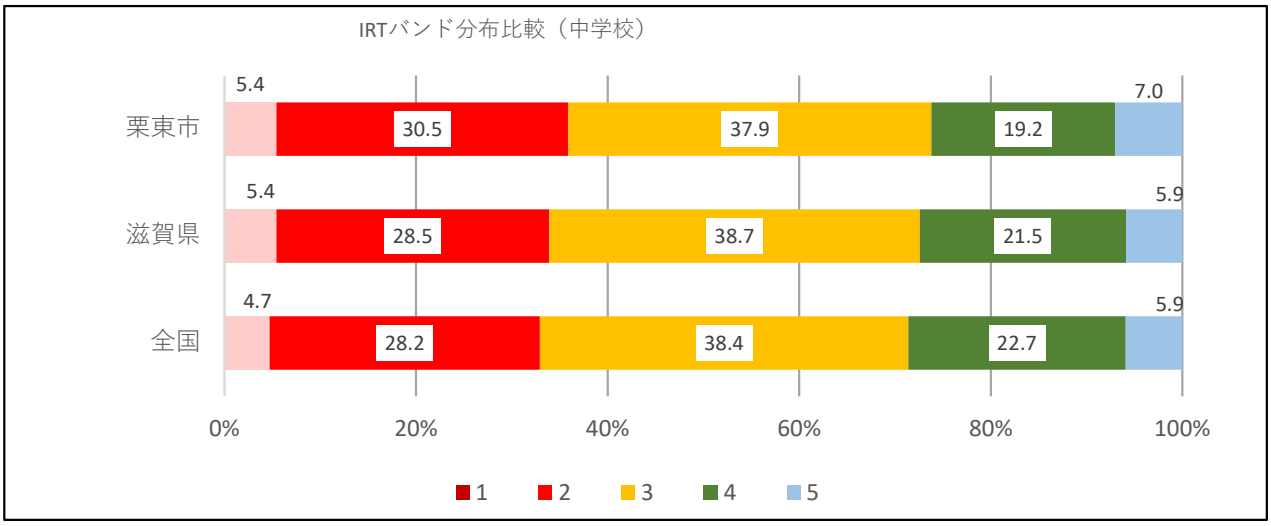


中学校英語はCBTで実施。
公開問題10問、非公開問題12問。



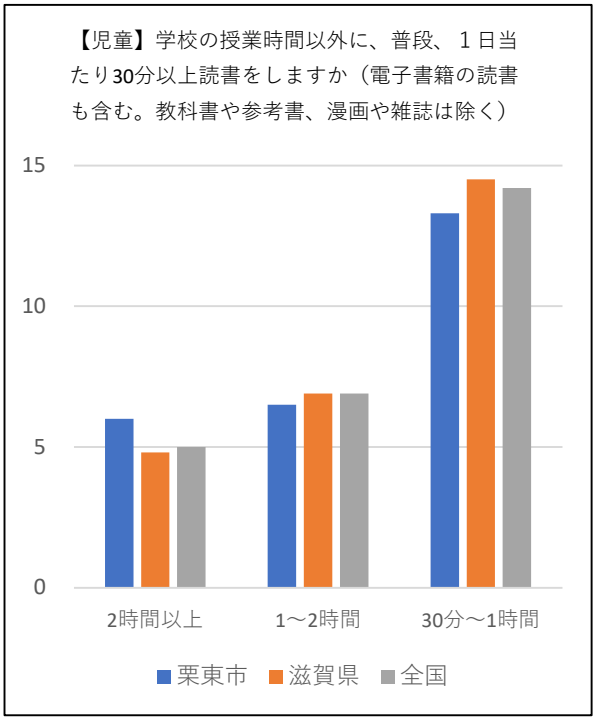
【英語の結果概要】

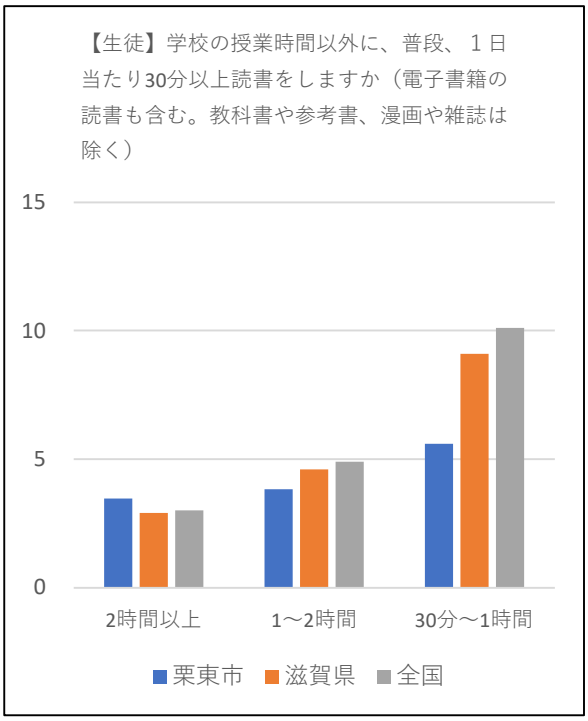
	中学校
平均正答率	平均IRTスコアで全国平均を9ポイント、滋賀県平均を6ポイント下回っていました。
領域別・評価の観点別の平均正答率	CBT方式で行い、全員が同じ問題でないため、領域別および評価の観点別の平均正答率はありません。
記述問題の無解答率	公開問題の4問全てで、全国平均、滋賀県平均よりも高い割合でした。
IRTバンド分布比較	１・２・５バンドの生徒の割合が全国よりも高く、３・４バンドの生徒の割合が全国より若干低くなっていました。
英語の学力向上の手立て	１・2バンドの生徒において、基礎学力の定着に向けた支援が必要です。5バンドの生徒は全国や滋賀県と比べて割合が高く、英語を得意とする生徒との協働的な学びにより成功体験を積み上げ、加えてスモールステップの学習が大切となります。



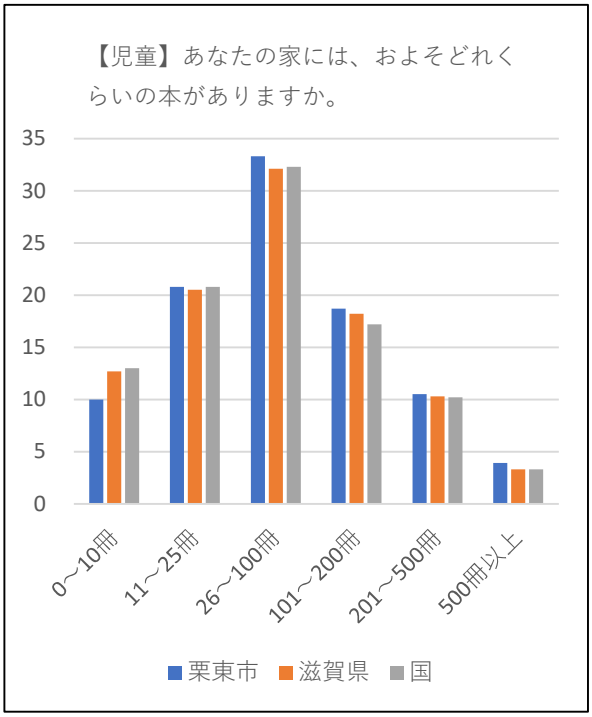
児童生徒質問調査から見えてくる栗東市の子どものすがた

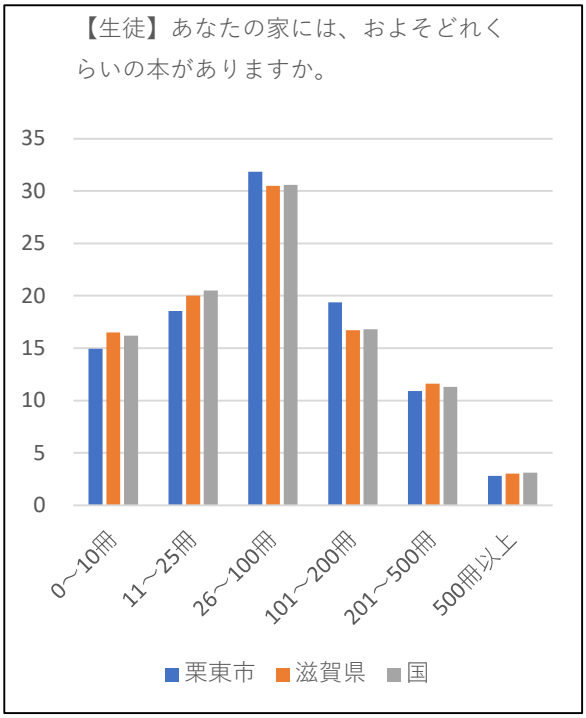
Ⅰ．読書や活字に触れる環境に関する質問について





普段、30分以上読書をしている本市の小学６年生は全体の25.8%、中学３年生は全体の12.9%です。中学生になると、部活動や学習で読書の時間が減っていると推測されます。





小学６年生、中学３年生ともに、家にある本の冊数の中央値は26～100冊となっています。本市では「26～100冊」「101～200冊」の割合が、国および県より高かったです。

2. ICT機器の活用に関する質問について

質　問　項　目	小６ 週3回以上と答えた児童生徒の割合	中３ 週3回以上と答えた児童生徒の割合
小学５年生（中学１，２年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	61.9 （昨年63.0）	74.8 （昨年55.3）

質　問　項　目	小６ とてもそう思う、そう思うと答えた児童生徒の割合	中３ とてもそう思う、そう思うと答えた児童生徒の割合
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。	79.4	80.9
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。	84.3	89.1
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	64.7	62.9
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。	75.6	79.7

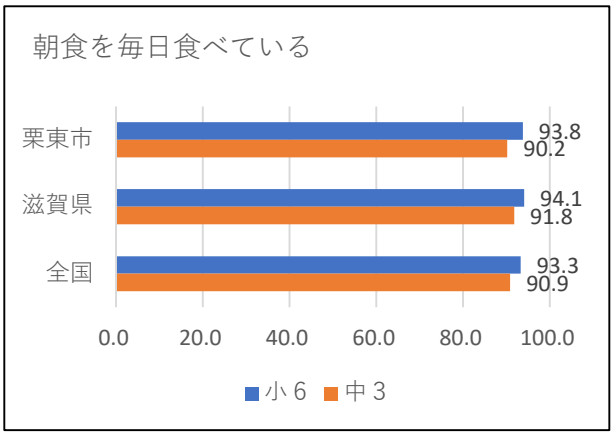
質　問　項　目	小６	中３
小学５年生までに（中学校１，２年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	63.9	50.6
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	68.8	61.5

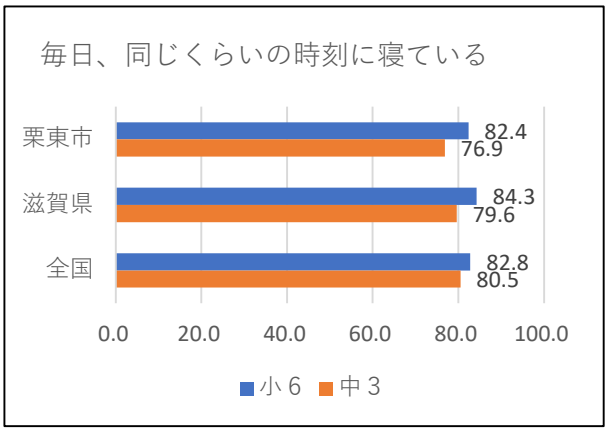
ICT機器を活用した学習に対しては、小学６年生、中学３年生ともに肯定的に回答をしていました。個別学習やグループ学習など様々な形態の学習で活用されるとともに、調べ学習や発表（プレゼンテーション）などの学習でも活用されており、個別最適な学びや協働的な学習につながっています。ICT機器を活用した学習の回数については、滋賀県よりも割合が高くなっていますが、全国平均より低くなっていることが現状です。次年度からの学力・学習状況調査はすべてCBTでの調査が予定されています。調査対象となる児童生徒が十分に力を発揮できるよう、学習用端末を操作するスキルを高めることも重要となります。

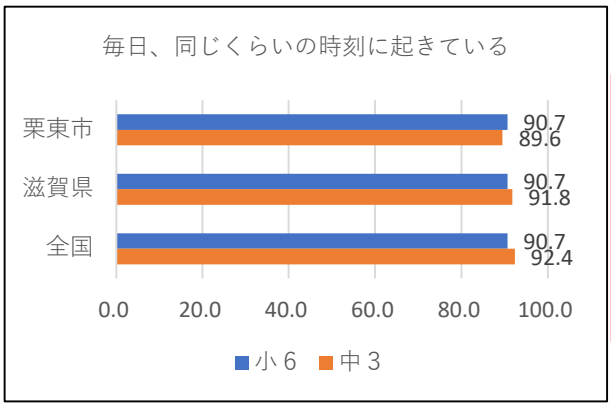
総合的な学習の時間や他の教科において、発表の機会を増やし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるためにはどうすればいいのかを考える経験を増やしていくことが大切です。今後は、学ぶ意欲がさらに高まるよう、発達段階に応じて授業の中でICT機器をさらに活用し、自分の考えや意見を伝える機会や発表の経験をする機会を仕組んでいくことが大切であると考えます。

３．家庭での生活や学習のすがた

◇基本的な生活習慣





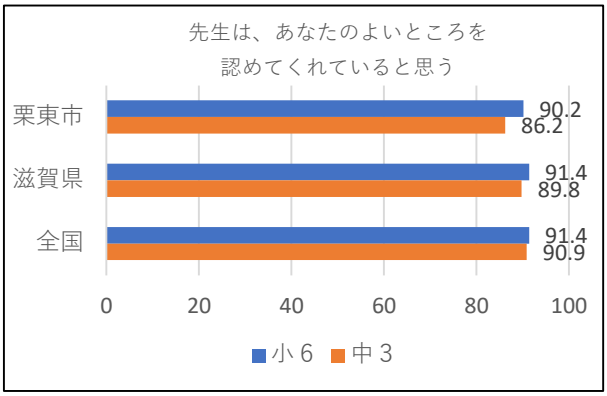


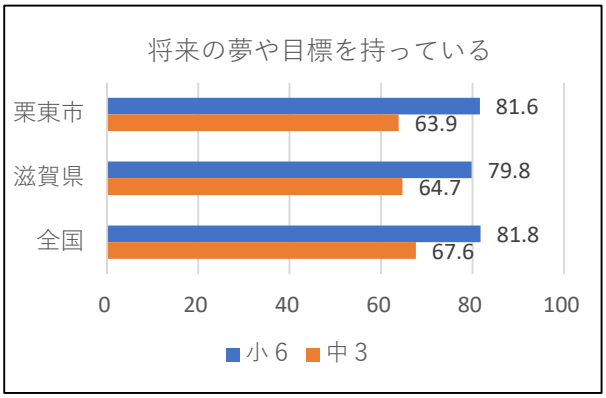
小中学生とも、朝食を食べることと、決まった時刻に起きることといった基本的な生活習慣が身についていると言えます。生活習慣の形成には家庭の役割が大きいので、家庭で声かけがしっかりされていることが推測されます。

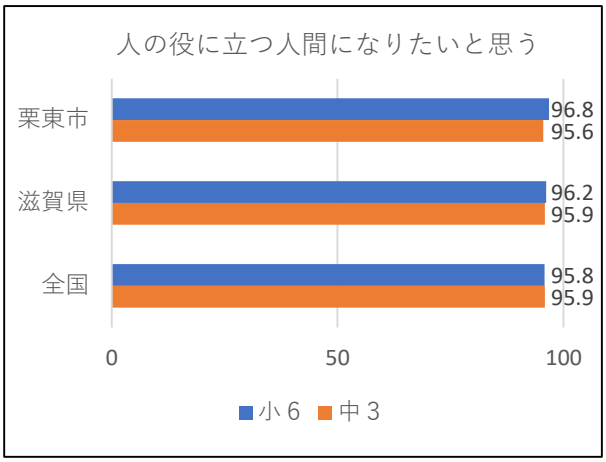
４．栗東子育て教育Nextプロジェクトについて

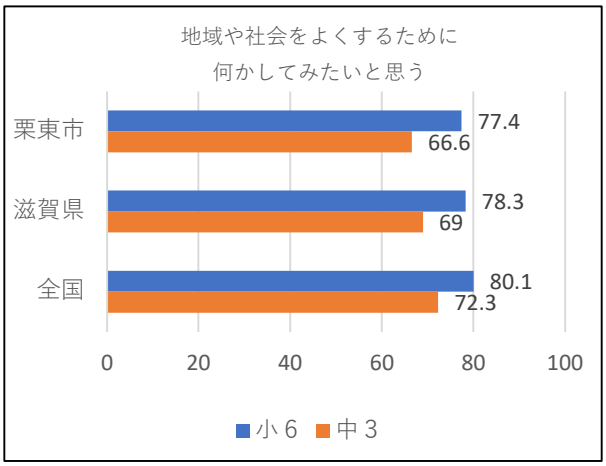
栗東市では子どもに特につけたい非認知能力を「しなやかさ」（レジリエンス）と設定し、その育成に向けて、市独自の「栗東子育て教育Nextプロジェクト」を推進してます。非認知能力は、本来テストなどで数値化できないものです。非認知能力を支える力を「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」として、関連する質問調査から小中学生がもつ非認知能力の一端をうかがい知ることができます。

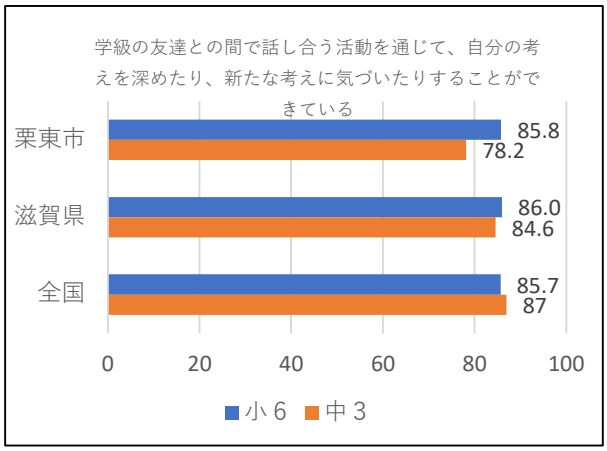
◇自分を高める力…自分をさらに良い状態にするために必要な力





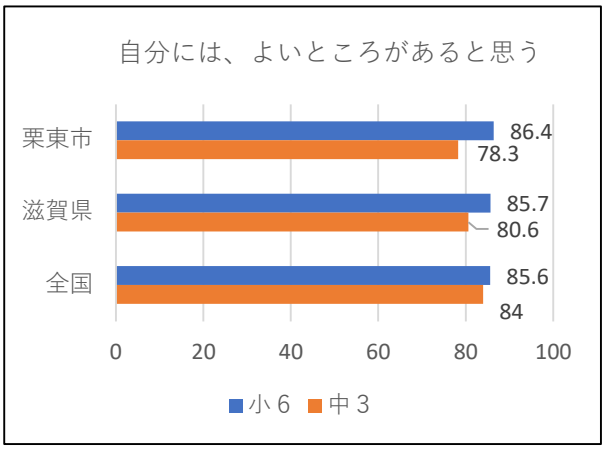


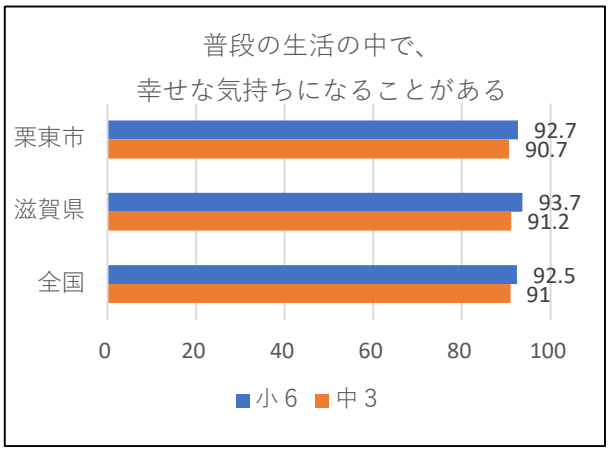




90%以上の小中学生が「人の役に立つ人間になりたい」と考えています。こうした思いを子どもたちが今後も持ち続けられるよう、学校、家庭、地域で素敵なところを積極的に認めていき、子どもたちの自尊感情を育てていくことが大切です。

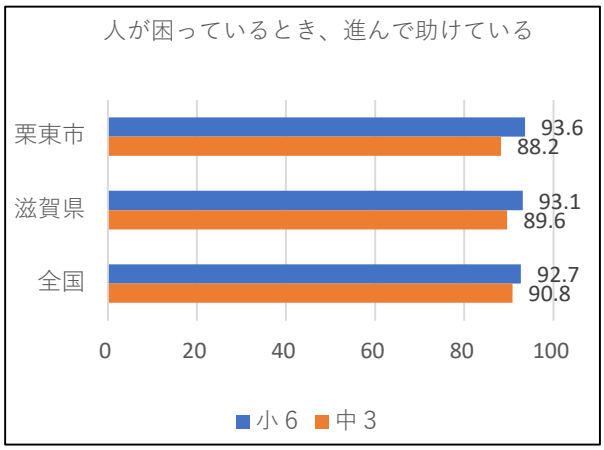
◇自分と向き合う力…自分の気持ちや状態を落ち着かせるために必要な力

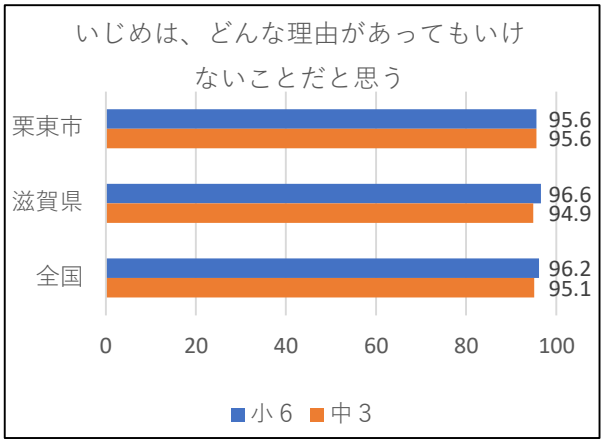


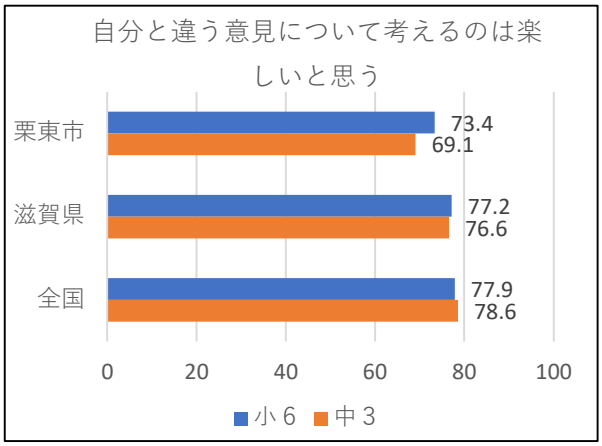


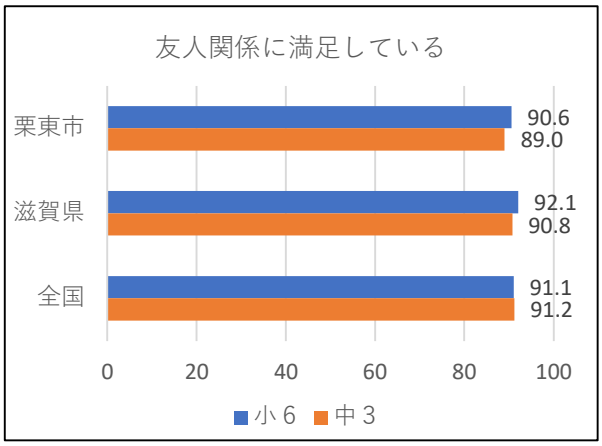
80%前後の小中学生が「自分には、よいところがある」と思っています。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と90%以上の小中学生が回答しています。子どもたちの自己肯定感、幸福感を高い水準で維持できるよう、今後も我々大人が声かけしていくことが大切です。

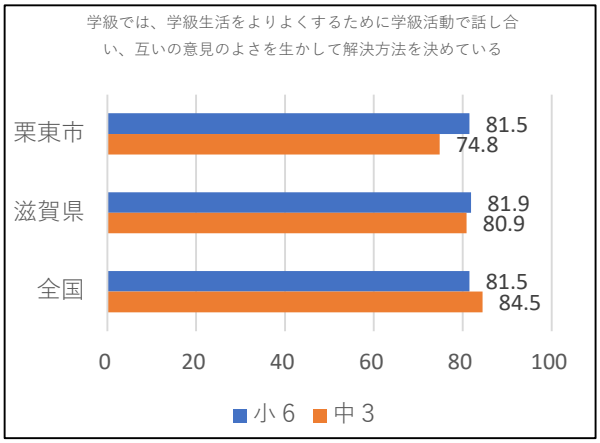
◇他者とつながる力…他者と協働するために必要な力











95%以上の小中学生が「いじめは、どんな理由があってもいけない」と思っています。また、「困っている人を進んで助けている」と思っている小中学生も多くいます。相手の気持ちを考えてつながっていく力を育むため、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに関わっていくことが大切です。

小学校と中学校が連携した取組により、多くの項目について伸びが見られました。「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の成果が表れ始めていると言えます。

「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の３つの力を伸ばす取組を今後も大切にしていきます。

栗東市の学ぶ力向上策

思考を可視化し伝える「記述力・表現力」の育成

各教科の授業の中で、「自分の考え（思考）を言葉や文章で表現（可視化）し伝える学習場面」をたくさん作っていきます。お互いの多様な考え方に触れることを通して、記述する力や表現する力を育んでいきます。

校内で一斉に読書する時間を確保するなど、読書活動を推進します。学習用端末の更新を機に、手軽に読める電子書籍「Yomokka」が利用できるようになります。子どもたちがいつでもたくさんの本に触れられる環境を整えることができました。国語科の教科書に出てくる説明文や物語文に関連した本をあわせて読む「並行（へいこう）読書」に取り組め、文章を最後まで読むことに慣れる経験を積み重ねます。引き続き、学校司書を効果的に活用し、学習に必要な本の準備や助言を活かし「読み解く力」の向上を図ります。また、子どもたちが「本を読むのが楽しい。好き。」と思えるよう、各校の蔵書冊数を増やし、利用したくなる学校図書館づくりを行います。

「ICT機器の効果的活用とICT機器の扱い方の向上」

子どもたちが課題の解決に向けて、学習用端末や授業支援システムを用いて、自分の考えや意見をわかりやすく伝えたり、まとめたりすることができるよう、効果的な活用を推進していきます。

学習用端末などのICT機器を用いて授業を行う回数は、年々増加しています。「授業支援システム」の活用が定着し、リアルタイムで子どもたち同士が互いの考えを共有したり、教員が1人ひとりの進み具合にあわせてきめ細かくサポートしたりして、効果的にICT機器を活用する授業が増えています。

さらに電子黒板の導入によりICT機器の効果的な活用を加速化させるために、ICT支援員を派遣して研修会を行ったり、好事例を共有したりするなど、今後もサポートしていきます。

「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の継続、推進

0歳から15歳までの連続性を大切にした「栗東子育て教育Nextプロジェクト」では、失敗や困難なことがあっても、柳や竹のように「しなやか」に立ち直る力『レジリエンス』をはじめとする非認知能力の育成を目指しています。そこで、「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の３つの力の伸長を図ります。

今後も、幼稚園・保育園・幼児園・こども園での体験や学びが、小・中学校に引き継がれ、生かされる保幼こ小中連携と接続をより一層強化していきます。

「めあてと振り返り」の明確化と安心して学び合える対話の充実

安心して学び合える対話の充実を目指し、その学びに向かう共通基盤となる、「めあて」による目的の明確化と、「わかったこと・疑問・次にやりたいこと」を振り返る時間を大切にして、指導主事等が学校訪問の際に現状を確認し助言、支援をしていきます。加えて、各校が児童生徒の実態を分析し、学力向上の方略にあった取組に希望できる「学力向上セレクト・パッケージ」を継続しサポートしていきます。